

がんばってます!

佐々木順一

佐々木順一のプロフィール

氏名	佐々木 順一
生年月日	ささき じゅんいち 昭和27年1月29日(辰年、みずがめ座)
出身地	岩手県稗貫郡石鳥谷町新堀
最終学歴	昭和49年 東北学院大学法学部
現在の主な役職	岩手県議会議長 岩手県議会商工文教常任委員会委員
経歴	昭和49年 自由民主党岩手県支部連合会職員 平成5年 衆議院議員 小沢一郎秘書 "7年 岩手県知事増田寛也政務秘書 "11年 岩手県議会議員初当選(連続5期) "19年 民主党岩手県総支部連合会幹事長(連続4期) "24年 国民の生活が第一岩手県総支部連合会幹事長 "25年 生活の党岩手県総支部連合会幹事長 "28年 自由党岩手県総支部連合会幹事長 "29年 岩手県議会議長



9355億円余の平成31年度当初予算案や「いわて県民計画2019(2028)」案、教育長人事案など議案81件、議員提案の「県産木材等利用促進条例」案を含む13件の発議案などを審議する2月定例会県議会は、2月13日に招集、3月25日の最終本会議ですべての議案を可決し、41日間にわたる会期を閉じた。追加提案された30年度補正予算案など議案35件は2月28日の本会議で先行議決された。平成31年度当初予算は、東日本大震災津波からの復興と同28年台風第10号災害からの復旧・復興に最優先で取り組むとともに、自動車半導体関連産業の集積や県内への就業の促進、農林水産業の

平成時代最後の県議会定例会を終えて

2019年を「スタートダッシュ」の

年にしなければならぬ。

生産性の向上などの産業振興に向けた取り組みに加え「活力ある小集落実現プロジェクト」や「人口密度向上プロジェクト」など長期的な観点に立ったプロジェクトを具体化する事業に着手することになっている。また、10年後の岩手の将来像と基本政策の方向性を示した「いわて県民計画2019(2028)」は「お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」を基本目標に掲げるとともに、人口減少が進行する中、優れた地域資源などを最大限に生かし、東日本大震災津波からの復興とその先の振興も見据えながら、地域経済の基盤強化や持続可能な地域社会の構築を図ることをねらいとしている。平成時代最後の2月定例会県議会。そして5月1日からは新しい元号の時代が幕を開ける。新年度県予算とともに「幸福」をキーワードとする新「いわて県民計画」が4月1日からスタートする。2019年を目標実現に向けての「スタートダッシュ」の年にしなければならない。



岩手県議会 2月定例会本会議

公共事業を中心とした主な県関係事業

(単位：百万円)

区分	事業名	路線等	箇所名	事業概要	H31年度当初予算額	摘要
道路	道路環境改善事業	国道 283 号	晴山	(1) 当該路線は、釜石市を起点とし花巻市に至る路線で、本県の横断軸を形成する路線です。東日本大震災津波復興計画において、復興支援道路に位置付けており、沿岸南部の復興に重要な路線となっています。 (2) 平成 19 年度の道路防災総点検において、落石の恐れがあり、「対策が必要」と判断された道路路面の対策を実施し、安全で円滑な交通を確保するものです。	162	道路防災（落石対策）
		国道 456 号	井戸向		40	交通安全(交差点改良)
		主要地方道花巻大曲線	志戸平	(1) 当該路線は、花巻市街地より西和賀町沢内を經由秋田県境に至る路線であり、沿線には志戸平・大沢等の温泉地や県立自然公園があり、観光道路として重要な路線となっています。 (2) 当該事業区間は、湯口小・中学校の児童・生徒の通学や、沿道を散策する観光客が利用していますが、歩道が未整備であることから、歩行者の安全な通行を確保するため、歩道整備を行うものです。	53	交通安全(交差点改良)
		主要地方道盛岡和賀線	(仮称)西南道の駅		150	道の駅(休憩施設等)整備
		主要地方道盛岡和賀線	桐ノ目～北湯口		63	舗装補修(舗装打換)
		主要地方道北上東和線	道の駅「とうわ」		30	道の駅(停電・節電対策)
	道路維持修繕	国道 456 号	上浮田		35	切削オーバーレイ
		一般県道石鳥谷大迫線	亀ヶ森		35	切削オーバーレイ
	県単橋りょう補修	主要地方道盛岡大迫東和線	金仏橋ほか		50	橋梁補修
	地域連携道路整備事業	主要地方道花巻北上線	島	(1) 当該路線は、花巻市の(国)283号(高木地区)から北上市の(国)107号(口内地区)とを結ぶ幹線道路です。 (2) 当該事業区間は、線形不良や歩道未整備の隘路区間となっていることから、線形改良、歩道整備を実施し、安全で円滑な交通と歩行者の安全を確保しようとするものです。	258	道路改良
ダム	堰堤改良事業	早池峰ダム			133	設備改良
公園	広域公園整備事業	花巻広域公園	4	(1) 本公園は、花巻市西部に位置しており、花巻市を中心とした近隣市町村の人々のスポーツ・レクリエーション需要を充足させることを目的に昭和 49 年 4 月から整備を開始し、平成 14 年 5 月に全面供用された都市公園です。 (2) 本公園は、経年劣化等により施設の損傷が発生していることから、本事業で施設の補修・更新を行うことにより、安全で安心な公園を利用者に提供しようとするものです。	50	公園施設の補修
住宅	公営住宅建設事業	天下田アパート	5	県営天下田アパートは、昭和 53 年～昭和 57 年に建設された 5 棟 112 戸の団地です。建設後 30 年以上経過しており、設備・構造などの老朽化、陳腐化が顕著となっています。 このため、既存設備等の機能更新及び長寿命化改善を行う必要があります。 また、高齢者対応(段差の解消、手すりの設置等)についても、改善を行う事業です。 本事業の対象は、1～5 号棟の 5 棟及び付帯施設等です。	138	県営住宅の改善

地域連携道路整備事業 ・主要地方道花巻北上線・島地区



歩道未整備



線形不良及び幅員狭小

平成31年度の花巻地域等における公

(単位：百万円)

地域名	事業名	施設等箇所名	事業概要	予算額		総事業費	事業期間
				H30補正	H31当初		
花巻市	土地改良事業調査(県営・県単)	柴沼、太田	県営土地改良事業の実施に向けた事業計画の策定等を行うもの		5		
石鳥谷町	土地改良事業調査(県営・県単)	大興寺			1		
東和町	土地改良事業調査(県営・県単)	砂子			1		
花巻市	土地改良事業調査(国庫補助)	太田、鍋割、田沢			63		
石鳥谷町	土地改良事業調査(国庫補助)	大興寺、大瀬川			63		
東和町	土地改良事業調査(国庫補助)	砂子、小山田、石鳩岡			14		
花巻市	土地改良事業調査(県営・県単)	豊沢川	県有水利権の円滑な更新を図るための基礎調査を行うもの		6		
花巻市	かんがい排水事業	大曲	農業用水の安定的な確保・農地及び住居への溢水被害等の防止、水利用・水管理の効率化・省力化を図るため、ダム、頭首工、用排水機場、用排水路等の基幹的農業水利施設の整備(新設・更新等)を実施		45	510	H23~H31
花巻市	経営体育成基盤整備事業	外台、天下田、万丁目、大沢、小瀬川	強い農業の実現に向けた営農の効率化と低コスト生産、担い手の確保・育成を図るため、農地中間管理機構と連携しつつ、水田の大区画化や排水改良などの生産基盤の整備と担い手への農地利用集積を一体的に推進	190	119	3,208	H24~H34
花巻市	土地改良施設維持管理適正化事業費補助	豊沢川	土地改良施設の診断・管理指導の結果、整備・補修が必要と認められた施設について、適正化実施計画に基づき整備・補修を実施	0	8		
石鳥谷町	土地改良施設維持管理適正化事業費補助	石鳥谷東部		0	1		
花巻市	国営造成施設管理体制整備促進事業	豊沢川、猿ヶ石北部	土地改良区が管理している事業対象施設の管理費に対し、国で定めた多面的機能に該当する経費を支援	0	48		
花巻市	小水力等再生可能エネルギー導入推進事業	豊沢川	農村地域に賦存する再生可能エネルギーの有効活用により、土地改良施設の維持管理費の軽減等を図るため、農業水利施設に小水力発電設備を導入	0	14	120	H31~H33
大迫町	林道整備事業	漆山	用地測量・立木調査 L=2,400m	0	30	980	H30~H39
大迫町	治山事業	下中居	谷止工 1基		25	25	H31~H31
花巻市	農村地域防災減災事業費	炭焼沢	地震防災対策等の災害防除を推進する地域に指定されている地域に対し、災害から農村住民の生命、財産及び生活を守るため、農業用施設や農村防災施設等のうち整備の優先度が高い施設の整備を実施	0	15	226	H31~H34
東和町	農村地域防災減災事業費	鍋、東和北、東和南		142	63	1,290	H27~H32
東和町	経営体育成基盤整備事業(農地中間管理機構関連農地整備事業)	平良木	強い農業の実現に向けた営農の効率化と低コスト生産、担い手の確保・育成を図るため、農地中間管理機構と連携しつつ、水田の大区画化や排水改良などの生産基盤の整備と担い手への農地利用集積を一体的に推進	0	5	2,545	H31~H40

林道整備事業・大迫町漆山地区

【解決すべき課題】

・利用区域内の森林面積は、人工林が49%を占めており、県平均(42.7%)を上回っているものの、林内路網の整備の遅れや間伐などの森林整備の推進が支障となっている。

【林道整備によって得られる効果】

・林内路網の幹線となる林道の整備により、木材生産の低コスト化や森林整備の効率化を図ることで、間伐材等の木材生産量の増加や水源の涵養、県土の保全など、森林の多面的機能の持続的効果の発揮が期待される。



林道整備後(イメージ写真)



林道計画路線沿いの森林整備計画地の状況



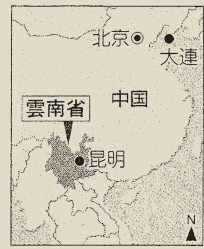
林道整備効果(木材生産コストの低減)(イメージ写真)

県が雲南省 中国 事務所開所

県産品販路拡大狙う

県は18日、中国・雲南省昆明市に現地事務所を開所した。県産品の販路拡大や日中友好事業の拠点とする。

本県訪問団約40人がオフィスビル内に設けた事務所を視察後、同市内で雲南省人民政府関係者らと記念祝賀会を開催。達増知事が「相



互理解の増進や人々の往来の促進が図られ、それぞれの地域の発展に資することを目指している」とあいさつし、テープカットして門出を祝った。

事務所は県が盛岡市のいわて産業振興センターに運営を委託し、現地スタッフ2人が常駐。昆明市で6月に開かれる南アジア博覧会への県産品出展や、パイプ招聘、中高校生の相互交流などを調整する。



活動範囲は中国大連の既存事務所が同国全土を網羅する一方、新事務所は雲南省に特化。2010年の上海万博を機に交流を本格化させた同省との友好をさらに強化する。

訪問団は19日、上海市で現地経済界の関係者と交流し、20日に帰国する。

岩手日報 30.4.19

最高賞に村田さん(不來高)



表彰式に参加した(左から)乙部琳さん、村田瞳さん、加藤奈生さん

県議会傍聴ポスターコンテスト

県議会(佐々木順一議長)の1ストの入賞者を表彰した。は3日、県内の高校や大学などに掲示する若者向けの「県議会傍聴ポスターコンテスト」賞した。

表彰式は盛岡市の県議会棟で行った。副議長賞は県立産業技術短期大学の工藤美也香さん(同)、同大の加藤奈生さん(同)と不來高の乙部琳さん(同)が入賞した。

男子学生が議事に耳を向ける様子を描いた村田さんは「議会は難しいイメージだが、ちゃんと聞けば分かる。学生にも耳を傾けてほしい」と思いを託した。

ポスターは18歳以上への選挙権年齢引き下げに伴い、若者の関心を高めるために2年前から作っている。公募したのは今回が初めてで、17作品が集まった。

6月、9月、12月、2月の県議会の各定例会の時期に県内の中学校や高校に配る。

岩手日報 30.8.4

家庭との両立求め提言

県議会 女性議員 欠席理由に育児や介護

県議会の女性議員7人は9日、佐々木順一議長に対し、議員の男女共同参画の推進として、議会活動と家庭生活を両立しやすい環境整備などを求める提言書を提出した。会派を超えた取り組みで、県議会会議規則の欠席の理由に、育児や家族の介護などを加えるほか、欠席が長期にわたる場合の議員報酬の在り方についても、議会全体での検討を求めている。



提出したのは、工藤勝子氏(自由民主党)、佐藤ケイ子氏(改革岩手)、ハクセル美穂子氏(いわて県民クラブ)、千葉絢子氏(同)、千田美津子氏(共産党)、小西和子氏(社民党)、吉田敬子氏(無所属)。

佐々木議長は「提言の趣旨を踏まえ、女性と男性の機会均等の議会活動がどうあればいいのか、全議員に伝えて意見を聞いた上で速やかに前に進めていきたい」と述べた。

岩手日報 31.1.10

報道で見る主な活動

国際分担の考え明示を

達増知事と
県議会議長ら
省庁、議連に要望



東北誘致

【東京支社】北海道東北地方知事会と若手、宮城各県議会の国際リニアコイター（ILC）建設実現議連は13日、関係省庁と超党派のリニアコイター国際研究所建設推進議員連盟に対し、ILC誘致の早期実現を要望した。

達増知事、佐々木順一県議会議長らが省庁、自民党本部を回り、渡辺博道復興相、永岡桂子文部科学副大臣、同議連の河村建夫会長



「要請書を手渡した。要望は早期誘致実現に向け海外パートナー国との国際科学技術イノベーション拠点の形成や地方創生の観点からの検討」などを求めた。渡辺氏は「復興後の新しい東北の視点も考えたい」と述べ、ILCの費用は一つの国で賄うのは難しい。文科省、内閣府などと連携して検討したい」と答えた。

終了後、達増知事は「政府の検討作業も大詰めになっている。執行部と議会が連携しての要望で、地元の熱意を感じていただいた。ILCは世界に貢献するためにも必要だ」と強調した。

岩手日報 30.11.13

運動推進へ決意新た

北方領土
返還要求
盛岡で県大会

北方領土返還要求県大会は5日、盛岡市内のホテルで開かれた。7日の「北方領土問題」を前に「北方領土の日」を前に約170人が出席して講演や交流事業報告、大会宣言の採択などが行われ、ロシアからの四島一括返還実現に向けた運動推進への決意を新たにした。

岩手日報
31.2.6



領土問題対策協会員推進委員が読み上げ、佐々木原修一主任指導主事が昨年9月実施の北方四島訪問事業の成果を報告した。

伊藤淳之介盛岡青年会議所理事長が「県民、国民の悲願である四島一括返還の一日も早い実現を目標し、風化させることなく新たな決意で粘り強く運動を展開していく」とする大会宣言を読み上げ、満場一致で採択された。

同県民会議は、県と県議会、市町村、市町村議会などを構成員として1979年に設立された。会員は18の団体。

北方領土返還要求県大会であいさすする佐々木議長（中央）

国際定期便が就航

花巻—上海
初便祝い歓迎セレモニー



花巻空港の国際定期便2路線目となる上海線が就航し、達増知事（手前左から3人目）らがテープカットなどを行い運航開始を祝った

岩手日報
31.1.31

いわて花巻空港と中国・上海市を結ぶ中国東方航空（本社上海）の国際定期便が30日、就航した。初便の到着に合わせ、関係者の皆さんが花巻空港に着いた。初便の到着に合わせ、関係者の皆さんが花巻空港に着いた。初便の到着に合わせ、関係者の皆さんが花巻空港に着いた。

孫総領事は「政経開通が岩手と上海間、中日関係の発展に貢献すると確信する」と、張副社長は「就航した。初便の到着に合わせ、関係者の皆さんが花巻空港に着いた。初便の到着に合わせ、関係者の皆さんが花巻空港に着いた。」と述べ、積極的なPRを行う考えを示した。

関係者がテープカットなどを行い運航開始を祝った。達増知事から南部長と中国のさらなる交流人口の拡大に期待が寄せられている。2面に掲げられている。初便は同日午後2時すぎに到着。到着ロビーで行われたセレモニーには、達増知事や佐々木順一県議会議長、上田東一花巻市長、孫総領事、それに同社日本支社の張副社長ら約10人が出席した。達増知事はあいさつで「記念すべき国際定期便の就航へ国際定期便の就航へ一緒に祝うことができれば」と述べた。

初便（座席数156席）には135人が搭乗。ほとんどがスキーをメインにしたツアー客と、花巻などの観光客が8割以上を占めている。将来的に増えることも考えられる。中国入国観光客の伸びは倍増している。2018年1月1日時点で20000人、17年間を平均して約3000人回りの過去最多を記録している。

■県議会が台湾東部地震見舞金 県議会は24日、台湾へ2月の台湾東部地震の見舞金25万円を贈った。佐々木順一議長＝写真右＝が東京都内の台北駐日経済文化代表処を訪れ、向明徳（こう・めいとく）政務部長＝同左＝へ目録を手渡した。見舞金は県議全員から募った。佐々木



議長は「チャーター便の運航や東日本大震災でもいろいろなお力添えをいただき、本当にお世話になっている。少しでも力になれば」と贈呈。向部長は「心温まる義援金。本当に感謝している」と述べた。（東京支社）

岩手日報 30.4.24



写真で見る主な活動



中国雲南省 岩手県事務所開所式

(平成30年4月18日、中国雲南省昆明市)

一戸町、星風の丘高森高原 風力発電所竣工式

(平成30年5月24日、一戸町高森高原)



2018 オリンピック ・パラリンピック報告会

(平成30年4月30日、盛岡市内)



第69回全国植樹祭

(平成30年6月10日、福島県南相馬市)



県勢功労者表彰式

(平成30年5月25日、盛岡市内知事公館)



一般国道 340 号立丸峠工区完工式

(平成 30 年 11 月 29 日、遠野市)



台湾国際便、タイガーエア台湾・張董事長 (CEO) 等の来県に伴う歓迎レセプション

(平成 30 年 7 月 4 日、花巻温泉・佳松園)



ILC 議連達増知事らとともに 川村議連会長に東北誘致を要望

(平成 30 年 11 月 13 日、自民党本部)

第 41 回岩手県聴覚障害者福祉大会 (一社) 岩手県聴覚障害者協会創立 70 周年式典

(平成 31 年 2 月 11 日、盛岡市内)



防災士の資格取得 = 心肺蘇生訓練

(平成 30 年 11 月 27 日、県議会棟)



南米三ヶ国訪問を終えて

県では5年ごとに南米訪問を行っている。今回（平成30年8月18日～29日までの12日間）、県議会を代表しブラジル・アルゼンチン・パラグアイの3ヶ国を訪問する機会を得たが、今年はブラジル日本人移民110周年、県人が初めて南米に移住して100年、ブラジル県人会創立60周年の節目の年である。これまで戦前2685人、戦後849人、合計3534人の県人が南米に移り住んでいる。

気候、風土、言語、習慣など全く異なる新天地において幾多の困難を乗り越え今日の地位を築かれたところであるが、ここに至る道のりはまさに筆舌に尽くしがたい苦労の連続であったことは言うまでもない。

しかし、移住者の方々に接して改めて感じたことは、苦労というものをみじんも感じさせないということであり、押しなべて寛容で穏やかな方々ばかりであった。

また、南米と我が国との外交が良好な関係にあることは知られているところであるが、この背景には移住者の毎日の生活を通じ、少しずつ築かれてきた住民との信頼関係の蓄積が大きく寄与していることも見逃してはならないと思う。いわば日本全国の移住者がこの基盤をつくったといえるのではないかと。

生まれ初めて初めての貴重な体験であったが、今や移住者の活動の中心も一世から二世、三世に世代交代している。母県（右手）と各海外県人会との交流をこれからも衰退することなく維持していくために議会として何ができるのか、また今後何をすべきなのか、このことを強く感じた南米訪問であった。

同時に、なぜ移民しなければならなかったのか。戦前の満州等への開拓者の移住を含め、冷静に歴史を振り返る必要性も感じたところである。少なくとも当時のポルトガルやスペインとは目的も手段も違うことだけは明確にしておかなければならないことを強く感じたところである。

防災士の資格を取りました



認定状



ウラ 防災士証カード オモテ



IWATE PREFECTURAL ASSEMBLY MEMBER

岩手県議会議員

さ さ き じゅん いち

佐々木 順一

佐々木順一
がんばってます！

「約束は守る」それが政治だ！

活動内容を、佐々木順一日記に書いております。アクセスしてみてください。



HOME
私のマニフェスト
県議会における主な発言
プロフィール
事務所
メール

<http://www.sasaki-junichi.jp/>